

世界救世教①之光教団 教主様ご巡教 信徒大会 教主様お言葉

於：マイドームおおさか3F

皆様こんにちは。本日は信徒大会おめでとうございます。

ここ大阪の地で、①之光教団の皆様、そして、いづのめ教団の皆様が相集われ、皆様の明主様を真に求めようとする思いが結集した、この大会に参加させていただけますことを、大変ありがたく、また、嬉しく思っております。

先程、成井理事長は、①之光教団としての姿勢を明確に訴えられました。

そのご挨拶は、明るく希望に満ちたものであり、大いに勇気づけられました。

続いて、白澤代表より「いづのめ教区」が5月1日発足に至ったとのご発表がありました。発足に至るまでの関係の方々のご苦勞をお察しし、また、その揺るぎないご決意をお伺いし、深い感謝の念を禁じ得ません。

今後とも、①之光教団の皆様のご協力をいただきながら、私が信賴する白澤代表を中心に、いづのめ教区が必ずやその使命を果たすことができるようにと強く願いつつ、明主様が用意してくださった新しい道を、共に前進してまいる覚悟であります。

私は、私と本当に思いを共にしてくださる方が、たとえ一人でもいらっしゃるならば、どんなにかありがたいことだろうと思っておりました。

しかしながら、私は今、私と思いを共にしてくださる方がこんなにも大勢いらっしゃることを目の当たりにし、驚きと感動と感謝で胸震える思いであります。

ただいまは、①之光教団を代表して、〇〇県〇〇布教所の〇〇〇〇さん、いづのめ教団を代表して、〇〇浄霊センターの〇〇〇〇さんより感謝奉告をご発表いただきましたが、皆様が真に明主様を求めようとする思いをもって、私の言葉を受けとめてくださり、それを日々の生活の中で、自らに当てはめて実践に努めておられる、そのお姿に触れ、皆様の真心に心打たれるとともに、私どもがお互いに明主様との強い絆で結ばれていることを、改めて感じさせていただいております。

今後とも、私は、皆様と思いを一つにして、皆様と共に、明主様が示された全く新しい救いの道をひたすら進ませさせていただきたいと願っております。それは、私の妻も真明も同じ思いであります。

振り返ってみますと、かつての私は、私の祖父が明主様であるという環境の中で、自ずとみ教えやご事蹟を通して、また、浄霊を始めとする活動を通

して、神様という存在を教えられてはいても、目にも見えず、声も聞こえないために、自分と離れたどこかにおられる神様として、ただ漠然と信じているという状態でありました。

私どもは、日々の生活の中で、神様を信じようとはしていても、心の赴くままに、喜怒哀楽の世界の中で汲々として生きてまいりました。

どうしても自分の願いが先立ってしまい、本当に神様が何を願っておられるのか、自分をどのようにご覧になっているのか、ということなど考える余裕すらなかったような気がいたします。

地上天国建設、人類救済のみ教えも、自分たちの理解や都合に合わせて受けとめて、自分たちにとって都合のよいことが実現するようにと祈り、待ち望む姿でありました。

何事においても、神様のお働きを自分の尺度や都合で評価し、知らず識らず、自分が他人よりも優れたものであるかのようになっていたのかもしれない。

実際、私にとっての神様も、自分が何かを願い、その実現を願う時だけに必要な神様であり、自分の願っていることが叶えられた時にだけ喜び、神様、明主様に感謝し、周囲に感謝していたように思います。

このように、私どもは、どこまで行っても、人間を主体にした祈りであり、感謝であり、人間を主体にした信仰であり、実践でありました。

明主様は、そうした私どもの心を開いてくださいました。

神様は、明主様を通して、私どもを全く新しい世界に引き入れてくださったのです。

そして、私どもの心の中に頑ななもの、思い上がったものがあることに気づかせてくださいました。

と同時に、私どもの中には、実に、光があり、私どもの命は神様の命であること、また、どんな時でも神様が私どもをお使いになっていることを信じていることのできる心を開いてくださいました。

そして、その神様を求め、その神様にお仕えしなければならない、と思えるように導いてくださいました。

私は今、神様は、私ども人間がどんなに頑なで、思い上がり、神様をないがしろにしていたとしても、私どもの心を少しでも神様という存在に向けさせようと、私どもを赦し、常に大きな愛をもって、私どもを一生懸命導いてくださっていると思わざるを得ません。

何という大きな親の赦しなのでしょう。何という深い親の愛なのでしょう。

それは、ひとえに、神様が私どもをご自身の子とするためです。

明主様は、岡田茂吉というお名前をもって、この地上にお生まれになり、そのご生涯は、様々な困難と苦労の連続でありました。

しかしながら、それだけではなく、明主様は、ご自身の中に神様が生きておられる、と感じ取られ、その確信を持つに至られ、それを私どもに、また、多くの人々に分け与えようとされる神様の御用のために、全身全霊を捧げられました。

そして、今から64年前、ご昇天の前の年の昭和29年、脳溢血という重い病のさなかにあつて、明主様は、ご自身が「生まれ変わる」のではなく、「新しく生まれる」と仰せになると同時に、「メシヤが生まれた」と仰せになりました。

このことは、明主様が神様に仕える子供、すなわち、神様のみ業を受け継ぎ、表現する者となられたことを示すものであると思います。

創造主であられる唯一の神・主神は、生きておられます。

私どもの中で生きておられます。

自分の中に主神が生きていらっしゃると感じ取ること、そして、そう断言することは、大変難しいことです。

このことは、人間の知恵や理屈で理解することではありません。

主神の創造の目的は、ご自身の子供をお生みになることであり、それは、私ども人間の側から言えば、私どもが主神の子供として新しく生まれ、主神の子供とならせていただくことであると思います。

明主様がお説きになった地上天国建設も人類救済も、その他の数々のみ教えやお歌も、そして、浄霊も、自然農法も、芸術も、また、明主様のご事蹟も生きざまも、そのすべての根底にある主神の思いは、私どもをご自身の子供とするということでもあります。

政治も、経済も、宗教も、科学も、あらゆる思想も、主神が私どもをご自身の子供とするために用意してくださったものであります。

すべての源は主神であります。言葉の源も主神です。

すべては主神が現れるためにあるのです。

私どもは、主神が現れるためにいるのです。

明主様は、主神の子供として新しくお生まれになりました。

新しくお生まれになり、地上でのご神業を全うされた明主様は今、主神のみもとにあつて、主神が現れるための御用にお仕えになつていらっしゃいま

す。

そして、主神は、ご自身を現されるために、明主様を先頭にして、私どもをお使いになっておられます。

このように、主神は、私ども一人ひとりを必要としておられるのです。

ここに、明主様に結ばれた私ども一人ひとりに与えられた使命と役割があると思います。

ですから、私どもは、明主様にお継りして生きていくだけではなく、明主様を模範とし、明主様に倣って、生まれ変わるのではなく、新しく生まれなければなりません。

なぜならば、明主様は、私どものために、私どもの先駆けとして、新しくお生まれになったからです。

このことは、架空のことではありません。

主神が創造をお始めになる前に、そのように決めておられたのです。

ですから、私どもが新しく生まれさせていただける、とそう少しでも思えるとしたら、それを信じ、また、そう思えないとしても、そうならなければならない、と自分の心の中で決心すべきであると思います。

小さな、小さな望みに生きるのではなく、大きな望みをもって生きてまいりましょう。

そうでなければ、何の人生、何の生きがいでありましょう。

私どもは、主神の子供とならせていただけるのです。

永遠の命に生きる子供として、すべてを赦し、浄め、救い、甦らせる主神のみ業にお仕えさせていただけるのです。

これ以上の恵みがあるでしょうか。

明主様は、先程申し上げた、メシヤ降誕ご発表の折に、お身体の回復が見られないにも拘らず、この時発せられた第一声は、「ずいぶん若くなってるよ私の方は」というお言葉です。

「ずいぶん若くなってるよ」というお言葉のあとに「私の方は」と付け加えておられるということは、“お前たちの方はどうだい、と、私ども一人ひとりに課せられた問題として、問いかけておられたのではないのでしょうか。

そのように思わせていただいたならば、私どもは今、“明主様と共にわたしも若くならさせていただきました。ありがとうございます、とお返事させていただかなければならないのではないのでしょうか。

私どもは、明主様と共に、若々しく新しい命に甦らせていただいたものとして、天国に立ち返らせていただきましょう。

そして、私どものうちにおられる明主様を先頭に、主神の全く新しい救いのみ業にお仕えさせていただきますよう。  
ありがとうございました。

以 上